## 公認会計士試験

# 12人が合格

今年度の公認会計士試験の合格者が2月16日、発表され、本学からは在学生・卒業生合わせて12人が合格した（3月1日現在）。

在学生は3年次生3人、4年次生5人。卒業生を含めた合格者全員がエクステンションセンターの会計士講座受講生だった。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、試験日程が大幅に変更になり、全体の合格率は10・1％だった。

合格者は次の皆さん。4年次生については3面「川島賞受賞者（奨励賞）」に詳細を掲載。3年次生は氏名に続き学部学年、出身校。卒業生は氏名、卒業年、所属ゼミ、出身校。

▽依田翔さん（経済4）▽石岡里果さん（経営4）▽大橋慶乃さん（商4）▽兎澤理央さん（商4）▽永澤勇希さん（商4）▽綱脇悠さん（経済3、東京都立正大学付属立正高）▽井上雄貴さん（経営3、神奈川県弥栄高）▽小山裕さん（商3、東京都狛江高）▽加賀谷将大さん（令2経済、秋田県秋田北高）▽藤本里菜さん（令2商、奥西康宏ゼミ、新潟県高田商業高）▽松川浩与さん（平31経営、千葉県市立船橋高）▽北村幸太郎さん（平31経営、大柳康司ゼミ、神奈川県鎌倉学園高）

都合により写真は掲載致しません
綱脇悠さん

都合により写真は掲載致しません
井上雄貴さん

都合により写真は掲載致しません
小山裕さん

公認会計士試験の合格者の情報をエクステンションセンター事務課（☎044・911・1268）までお寄せください。

## アントレプレナーシップ奨励金

# 第1号にOB井口さん、小林さん（経営4）

## 在学中の起業を支援

左から田中隆之キャリアデザインセンター長、小林さん、井口さん、遠山キャリア教育企画室長、見山謙一郎経営学部特任教授

アントレプレナーシップ奨励金の授与式が2月26日、生田キャンパスで行われ、2020年3月に就職活動支援会社「QUZLAB（くずらぼ）」を起業した井口慧さん（令2二部経済）と小林友哉さん（経営4）に奨励金が贈られた。

「アントレプレナーシップ奨励金制度」は、キャリアデザインセンターが主催する教育プログラムを受講して起業を実現した学生のアントレプレナーシップの奨励を目的に昨年7月に始まり、井口さんらは交付第1号となる。

2人は19年度専大ベンチャービジネスコンテストに参加。育友会長特別賞を受賞した事業計画をもとに、大学生が就職活動について本音で語り合う座談会の企画・運営などを手がける会社を在学中に起業した。

井口さんは「奨励金をいただけたことは自信になる。『学生目線』という武器を生かして事業を拡大し、就活のあり方をより良いものに変えていきたい」と力強く決意を語った。

遠山浩キャリア教育企画室長は「起業は会社をつくるまでよりも、つくってからが大事。今回の受賞を糧にして事業を成功させてほしい」とエールを送った。

## ネット情報　応用演習の成果を発表

# 市民団体の魅力伝える ロゴやサイトなど制作

ネットワーク情報学部の2年次選択必修科目「応用演習（メディアコミュニケーション）」の活動成果を報告する発表会が1月21日、オンラインで開かれた。

演習ではメディアコンテンツを通じて、川崎市内の市民活動団体の魅力発信や課題解決に取り組む。学生が4～5人ずつ9班に分かれ、各団体の要望を踏まえロゴ、リーフレット、ウェブサイト、PR映像の4点を制作した。

石井悠翔さんらの班は、武蔵小杉でヨガの活動を推進する団体を担当した。「健康」と「つながり」をコンセプトに、ロゴとテーマカラーを効果的にあしらうことで、制作物を統一感のあるスタイリッシュなデザインにまとめ上げた。

上野玲菜さんらの班は、詩吟を中心に高齢者施設などへの訪問活動を行う団体のイメージに合わせて、桜をベースに和を感じさせるデザインを提案。ウェブサイトでは問い合わせフォームを目立たせ、慰問の申し込み件数アップにつなげるための工夫を凝らした。

上野さんは「撮影の延期など予期せぬトラブルもあったが、団体の方々と意思疎通を図りながら柔軟に対応することができた」と半年間の活動を振り返った。

発表会後には、前期授業「映像演習基礎」で学生たちが制作したCM映像の表彰式が行われた。ドミノを使ってコロナ禍における人との距離感を表現した大榮由梨奈さんの作品「距離は遠く、心は近く」が最優秀賞を獲得した。

ロゴやリーフレットの特徴を紹介する上野さんの班

## 文・ジャーナリズム学科　応用実習

# 動画で川崎区と幸区をPR

## 最優秀賞の2チームを表彰

文学部ジャーナリズム学科2年次の必修科目「応用実習」を履修する学生たちが、川崎市川崎区と幸区の魅力を紹介するPR映像を制作した。福富忠和教授の指導のもと、チームごとに企画を練り、撮影から編集まで全工程を手がけた。

制作したPR映像は区職員が審査し、川崎区では林田侑未さんらによる『心で感じる街、川崎』が、幸区では花田桃さんらによる『今だから楽しむことができる』が最優秀賞に選ばれた。2月8日には両区役所で表彰式が行われ、区長から賞状と記念品が贈られた。

『心で感じる街、川崎』は自然や歴史、産業など、川崎区が持つ多彩な側面を散歩者視点で紹介した。林田さんは「撮影を通じて川崎区に暮らす人々の温かみや街の魅力を再発見することができた」と感想を述べた。

幸区にある小向マーケットというレトロな商店街を取り上げた『今だから楽しむことができる』は、着眼点の良さが高く評価された。花田さんは「昔からあるものを新たな視点で楽しんでほしい」と制作意図を語った。

福富教授は「メディア制作の知識や技術を地域貢献につなげることが授業の狙い。難しい状況下にあって、学生たちは頑張って作品を完成させた」と総括した。

川崎区最優秀賞の岩崎詩織さん、林田侑未さん、松岡翼さん、雨宮黎さん（左から）

幸区最優秀賞の宮田龍一さん、花田桃さん、井本彩乃さん（左から）

## 西部教授が委員長の国際会議

# 政府観光局から貢献賞

経済学部の西部忠教授が大会組織委員会委員長などを務めた「貨幣革新・地域通貨国際会議（RAMICS）飛騨高山大会（2019年9月実施）」が、日本政府観光局の2020年度「国際会議開催貢献賞」（中小規模会議）を受賞した。

同大会は国内外の地域通貨やデジタル通貨の研究者・専門家が集まり、デジタルコミュニティ通貨の新たな取り組みを探った。飛騨高山では、さるぼぼコインとエネポという2種類の地域通貨が運営されており、会期中、参加者が市内でランチやおみやげに地域通貨を使えるようにした取り組みがユニークと評価された。

西部教授は組織委員会委員長のほか、RAMICS理事、共催の進化経済学会会長として、運営に尽力した。

政府観光局主催の「国際会議主催者セミナー」でのオンデマンド配信が以下で見られる。

https://mice.jnto.go.jp/organizer-support/support-seminar.html

## 法・渡邊教授が海外研究員に

### 相馬学術奨励基金

若手研究者の海外派遣などを行う相馬学術奨励基金の2020年度海外研究員に、法学部の渡邊一弘教授（平18院法博）＝写真＝が決まった。

渡邊教授は刑事政策が専門。派遣期間は3月30日から1年間。

イギリスのオックスフォード大学で、イギリス量刑ガイドラインの基本構造の理解とともに、重大犯罪における刑事責任評価と量刑判断構造の分析に取り組む。

## 就職だより

〈3年次生へ〉就職活動が本番を迎え、会社説明会や選考試験などで慌ただしくなると思います。スケジュール管理はもちろん、体調にも十分注意して就職活動を進めてください。

3月に入ると、求人受付NAVIから、専大生を採用したいと強く考えている企業の採用選考に関する情報を閲覧することができます。納得のいく就職活動になるよう、大学をフル活用してください。

なお、キャリア形成支援課では、主催するイベントの詳細を、学生用新システム「in Campus」で発信しています。

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、プログラム内容に変更が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。

〈4年次生へ〉卒業後もキャリア形成支援課を利用できます。就職相談のほか、手続きをすればSnetの利用も可能です。第二新卒者や既卒者を積極的に採用している企業も数多くあります。諦めずに就職活動を続けましょう。

## 訃報

**加藤茂夫氏**（かとう・しげお）名誉教授・元経営学部教授

2月28日、74歳で死去。1977年から2017年まで在職。専門は経営組織論。

**平木隆氏**（ひらき・たかし）名誉教授・元文学部教授

3月3日、85歳で死去。1960年から2006年まで在職。専門は健康科学論。